

製品名: RSK3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17409**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	RPS6KA2 MAPKAPK1C RSK3
別名	RPS6KA2 MAPKAPK1C RSK3
遺伝子 ID	6196.0
SwissProt ID	Q15349
免疫原	アミノ酸配列範囲: 330~400 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

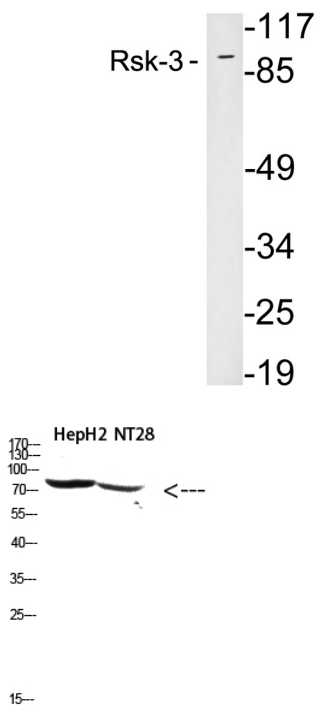
リボソームタンパク質 S6 キナーゼ A2 (RPS6KA2) ヒト この遺伝子は、セリン / スレオニンキナーゼである RSK (リボソーム S6 キナーゼ) ファミリーのメンバーをコードしています。このキナーゼは 2 つの異なるキナーゼ触媒ドメインを有し、マイトジェン活性

化キナーゼ (MAPK) シグナル伝達経路のメンバーを含む様々な基質をリン酸化します。このタンパク質の活性は、細胞の増殖と分化の制御に関与していることが示唆されています。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライスバリエントが同定されています。 [RefSeq 提供、2016年1月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素調節: スレオニンおよびセリン残基の多重リン酸化によって活性化されます。機能: セリン/スレオニンキナーゼは、成長因子およびストレス誘導性の転写因子 CREB の活性化を媒介する役割を果たす可能性があります。PTM: 活性化プロセスの一部として、Ser-377 が自己リン酸化されます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。S6 キナーゼサブファミリー。類似性: AGC キナーゼ C 末端ドメインを1つ含む。類似性: タンパク質キナーゼドメインを2つ含む。サブユニット: 静止細胞において ERK1 または ERK2 と複合体を形成する。マイトジェン刺激後、一時的に解離する。組織特異性: 多くの組織で発現する。肺と骨格筋で最も高い発現を示す。

研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;卵母細胞減数分裂;mTOR;長期増強;神経栄養因子;プロゲステロン媒介卵母細胞成熟;

画像データ



Rsk-3 抗体を使用した 293 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。

500 倍希釈の抗体を用いた hepg2、NT28 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。